

10月の手話教室のご案内(定例)

日時：10月12日(木)・10月26日(木)

10:00~11:00

場所：倉吉市人権文化センター 内容：日常会話・手話歌

初めての方も
大歓迎!!



地域ふれあいサロンを開催します!

日時… 10月17日(火) 10:00~12:00 / 13:00~15:00

場所… 倉吉市人権文化センター

参加費… 300円(額縁代) 当日持参

申込み… 0858-22-4768 までお電話ください!
(10月13日しめきり)

作品作成の所要時間は1時間~2時間です。
ご都合の良い時間にお越しください!

ペーパークイリングとは、細い紙を丸めて、色とりどりの花や植物を作り出す、簡単に綺麗な作品です。
ゆったりお話をしながら、さまざまなパーツを組み合わせ、素敵なモチーフを作ってみませんか?



安心して生活が出来ますか?眠れていますか? 食事はとれていますか?

仕事・生活・病気など様々な生活背景によって心配事は絶えません。まずは生活の基である、住む・食べる・寝るということがとても大切です。不安な状況が続く事があればお気軽にお越しください。電話対応もいたします。

差別落書きを見たら!人権侵害に気づいたら!すぐにお知らせください。

人権侵害や差別落書きは許されない行為です。差別落書きは人の心を傷つけるだけでなく、それを見た人に新たな差別意識を植えつけ、差別を拡大するなど、決して許されるものではありません。みんなで気持ちの良いまちづくりをしていきましょう。

連絡先：倉吉市人権文化センター ☎・FAX (0858)-22-4768



きずな

倉吉市人権文化センターだより

2023年10月1日 発行 No.153号

発行所：倉吉市人権文化センター

住所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

拉致問題啓発舞台劇公演

めぐみへの誓い — 奪還 — が開催されます

開催日 令和5年 10月20日(金)
13:00 開場/14:00 開会 16:30 閉会(予定)

場所 鳥取県立倉吉未来中心 大ホール
上演 劇団夜想会 脚本・演出 野伏 翔

申込方法 往復はがき、電子メール、FAXのいずれかの方法でお申し込みください
電子メールの場合、以下の記載事項を記入の上、倉吉市市民生活部人権政策課
(jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp) まで申込みください。

- ①代表者の住所・氏名(ふりがな)
 - ②代表者の連絡先(日中、連絡の取れる電話番号)
 - ③来場者全員の氏名(ふりがな)
 - ④車椅子をご利用の方、手話通訳が必要な場合はその旨を明記
- ※手話通訳については10月6日(金)までにお申し出の無かった場合には、ご希望に添えない場合がありますことをご了承ください

申込期間 令和5年10月6日(金)

本舞台劇は、中学一年生だった横田めぐみさんが新潟で拉致された当時から現在に至る拉致問題の経緯、めぐみさんや田口八重子さんたち拉致被害者の北朝鮮での生活を描いたものです。多くの皆様のご来場をお待ちしております。



問い合わせ：倉吉市人権政策課 電話 0858-22-8130

カラーユニバーサルデザイン(UD) について検証を行いました！

カラーユニバーサルデザイン(UD)とは



色の見え方の異なる人（色弱者）は日本人男性20人に1人、女性では500人に1人と言われ、日本全体では約320万人、世界では約2億人とされています。

そこで、全ての人に正しい情報が行き渡るように、色使いの配慮が必要になります。

こうした色の感じ方の違いは、生まれながらの先天的なケースと目の病気や加齢によって引き起こされるケースがあります。人によって色の感じ方に違いがあることを「色覚多様性」と呼びます。

色覚（色の感じ方）は味覚や嗅覚と同じように人それぞれに違います。多様な色覚に配慮してより多くの人に情報が正確に伝わるように色使いや文字の形など、利用者の視点に立ってデザインすることを「カラーユニバーサルデザイン」といいます。

カラーユニバーサルデザインは、2色以上の色を使うときや写真などの上に文字をのせるときは、できるだけ多くの人が見分けることができる色使いを行い、その上で、形や塗り分けなどを併用することで、「読めない」「使いづらい」といった状態を解消し、できるだけ多くの人に情報が正確に伝わるようあらかじめ配慮する取り組みです。

色の感じ方はどのように違うのか



【カレンダー】

平日の色（黒）と祝祭日（赤）が同じに見えるため祝祭日を平日と間違えてしまうことがある



【LED】

LEDの赤色はとても見えにくいので、電源が点いているかどうか分からない。
LEDの橙、黄緑、緑は同じ色に見えることがあるため情報が分からない



人権センターでの研修の様子

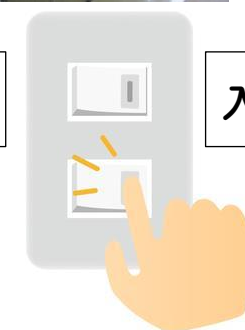
9月7日（木）に倉吉市人権文化センターでの施設点検を行いました。色弱の方の見え方が分かるゴーグルや、色彩アプリを使いながら実際に色弱当事者の方にも同行していただき、センター内の改善箇所を探しました。



研修を進める中で、センターの中にも、カラーユニバーサルデザインの改善点が見つかりました。

電気スイッチの「入」「切」がはっきり分かるようにテープを貼る、といった改善策も考えながら研修に取り組むことが出来ました。

切



入

カラーユニバーサルデザインの進め方

より多くの人に「使いやすい」「分かりやすい」と感じる、もの・環境・サービスを設計（デザイン）しようという「ユニバーサルデザイン」の考え方は、色づかいに関しても同じです。カラーユニバーサルデザインの考え方は「色を使って表現してはいけない」というものではありません。

情報を効率よく正確に伝達するためにカラーユニバーサルデザインの概念をよく理解し、色のユニバーサルデザインの視点に立ち、色を工夫して使うことが求められています。

カラーユニバーサルデザインを行う上での3つのポイントは、

- ★できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ
- ★色が見分けにくい人にも情報が伝わるようにする
- ★色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする

この3つを意識し、配慮することにより、多くの人に情報が正しく伝わるようになります。

「色のバリア」が社会にまだ残っていることに気がつき、誰もが正しく情報を得ることの出来る社会をめざしていきましょう。

